

これまでのいきさつ
レキシントン町エスタブルック小学校で起こった父兄の逮捕事件がきっかけで町に起こり始めた不愉快な出来事の数々に対応するために、レキシントンNo Place For Hate (N.P.F.H.)の委員長と呼びかけて緊急対策会議が招集された。第一回の対策会議に集まったのは、なんと五十人もの人々だった。
(※註)

レキシントン警察署長のケイシーの紹介を受けて、まずジョー・オレアリ警察補が会議の皮切りとして出席者に現況を説明することになった。
レキシントン町で育ったオレアリは、ヘイトクライムを担当する傍ら警察代表として Lexington No Place For Hate (以降N.P.F.H.と省略)の運営委員もつとめている。ポストンの警官らしくアイルランド人の血筋を引くオレアリは、テレビ番組「Law & Order」で経験を積んだ警部役を演じられそうなルックスと声の持ち主で、レキシントン警察のスポークススマンとしても活躍している。けれども、彼の最大の長所はこのルックスではなく、徹底した「公平さ」である。ヘイトクライムや性犯罪の加害者に対して嫌悪感を表現しがちなN.P.F.H.運営委員の何人かは、これまでに何度かオレアリに「罪を犯した者」であっても、人権があるということを忘れてはならない」とおつとりとたしなめられている。
オレアリは、輪になった五十人の出席者をざっと見渡すと、長年の知人に語りかけるように、警察が直面しているジレンマを打ち明けた。

バトルグリーン／連載エッセイ11

渡辺 由佳里

レキシントン町のユニークな対応 (その2)

沈黙の抗議

「革命」の地でありユダヤ人の多いレキシントン町が、「白人革命(ホワイト・レボリューション)」の宣伝にびつたりだと単純に思いついただけなのだ。
しかし、彼らはエスタブルック事件を知るやいなや、それが役立つことを直感的に悟り、インターネットで宣伝を始めた。差別団体としては知名度がさほど高くない彼らの主目的は、信念を主張することではなく、メディアの注目を浴びて新しいメンバーをリクルートすることなのである。だから、町民が怒って抗議デモをしたり、小競り合いで人が出てテレビのニュースになれば、これほどありがたいことはない。また、リベラルな町でのけ者になつていく若者が共感を覚えてメンバーになつてくれるかもしれない。
レキシントン警察は住民への完全情報公開を信じているので、通常で

あればここで話した内容を率直に住民主員に伝える。しかし、今回の場合は、興味津々でデモを見に行こうと思いつく者が必ずいる。また、反対のデモを行う必要を感じる者もあるだろう。それでは、WRの思うつぽである。警察は「無視」が最も有効な対策と考えているが、情報公開とのバランスという点で悩んでいる。
「そこで、皆さんのご意見を聞きたいです」オレアリは、出席者への質問で説明をしめくつた。

これからの展開がレキシントン町での臨時会議のユニークなところである。
なんせこの会議に集まった者の共通点といえは「レキシントン町」で働いているか暮らしている、ということだけである。職業だけでなく、価値観を大きく左右する年齢、人種、宗教、社会経済ステータス、教育レベルはまちまちである。エスタブルック事件に直接

「何もしないと、あとでデモを知った町民たちが『警察は何の対策も取らなかった』と不安や怒りを覚えると思う」という意見があったものの、「無視が一番」という点では出席者の意見は即座に一致し、予想したよりも短時間で出席者全員が納得できる次のような案ができた。
一、警察とN.P.F.H.が最小限の情報公開と「彼らが来る日曜日には町の中心街に行くことを避ける。決して彼らの煽動に応じない。無視する」といった対応策の共同声明を作る。
二、ここに出席した希望者がそれをEメールで知人たちに送る。
三、同時にこの共同声明を地元の新聞に掲載する。
五十人の出席者が知人に送ったEメールはそれらの知人からさらに多くの知人に広がり、新聞記事も併せて「デモを無視する」というメッセージは短期間に広くレキシントン町に行き渡った。そして、デモの日、町の静けさにつながりしのが、WRはレキシントン町ではデモを行わなかったのである。

しかし、この成功にほっとする暇もなく、WRよりも遙かに悪名高い「ウエストボロー・バプティスト教会(Westboro Baptist Church)」がレキシントン町に来るといふニュースが入ってきた。(つづく)

プロフィール

わたなべ ゆかり・1960年兵庫県生まれ。京都大学医療技術短期大学部卒、同大学部専攻科修了。京都大学医学部付属病院に三年間勤務。その後ロンドン留学、日本語学校のコーディネーター、医療製品製造会社勤務などを経験。2001年、『ノーティアーズ』で第七回小説新潮長篇新人賞を受賞。2003年、二作目『神たちの誤算』を発表。現在はポストン郊外レキシントン市で夫と娘の三人暮らし。翻訳やエッセイ執筆の日々を送る。

<著者のブログ>
<http://watanabeyukari.weblogs.jp/>

※註 下記の「エスタブルック事件参考サイト・文献」、『たからまがじん』2007年10月～2008年2月号をご参照ください。
※ 文中の固有名詞は新聞などですでに公表されており、ここでも実名を用いています。

エスタブルック事件参考サイト

- 【Lexington C.A.R.E.S.、レキシントン公立学校教育長、レキシントン検察長による共同声明】
<http://www.lexingtoncares.org/LPSPressRelease2005-05-02.pdf>
- 【Lexington C.A.R.E.S.による記事】
HYPERLINK "http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html"
<http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html>
- 【Article 8 Allianceによる記事】
HYPERLINK "http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm"
http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm

参考文献

Time: "Feels Like Teen Spirit", August 8, 2005.